

【フロンティアスクール用中間報告様式】

都道府県	鹿児島県
------	------

・学校の概要（平成15年4月現在）

吉田町立吉田小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	16
児童数	16	12	31	18	17	23	2	119	

・研究の概要

1. 研究主題

自ら学び主体的に活動できる子どもの育成
～基礎学力の向上を通して～

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

- ・1～6年算数
教科における系統性が高く，子どもの個人差が大きくなり個別指導の必要性が高いため。
- ・1～6年国語
学力検査における言語事項の落ち込みから，領域をしぼり，確実な定着を図る必要があるため。

(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 教師の指導力向上を目指した研究</p> <p>仮説 子どもの基礎学力向上のためには，教師の指導力を高め，楽しく・分かる授業を展開する必要がある。</p> <p>研究内容・方法 ・研修内容の多様化を図る ・TTへの取組を図る ・拡大授業参観（地域への授業公開，仮称）の実施</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の充実</p> <p>仮説 子どもの基礎学力向上のためには，子ども一人ひとりの個人差に対応した指導方法や指導体制を工夫する必要がある。</p> <p>研究内容・方法 ・TTの効果的活用を図る ・教師の特性を生かした一部教科担任制の導入 ・拡大授業参観（地域への授業公開）の実施</p>
--------	---

平成
16
年度

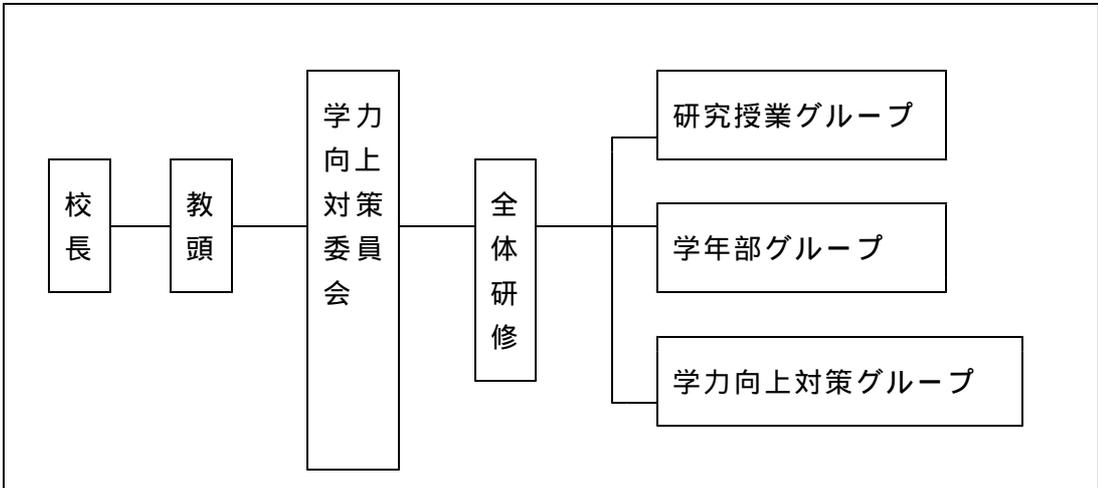
テーマ
評価を生かした指導の工夫・改善

仮説
子どもの基礎学力向上のためには、子ども一人ひとりの到達度や個性に応じた指導を工夫・改善する必要がある。

研究内容・方法

- ・習熟度別学習の実施
- ・教師の評価能力の向上を図る（評価の方法確立と生かし方）
- ・拡大授業参観（地域への授業公開）の実施

(3)研究体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・標準学力検査（NRT，CRT）は未実施であるが，昨年度の結果は国語科が+1.6，算数科+3.8（学年平均）の向上が見られ，今年度も同様と考えている。また，アンダーアチーバー児童が5，6年生では0であり，個別指導の効果が現れていると考えられる。
- ・計算力テスト（簡単な四則計算を時間を計って行う）で，学年平均で1.35分早くできるようになった。
- ・漢字力テスト（学年習得漢字）で学年平均で5～6点上昇することができた。
- ・児童の実態調査で，計算が好きと答えた割合が約10%，漢字練習が好きと答えた割合が約5%増えた。
- ・一部教科担任制（1～6年算数，1～6年国語，2，6年音楽，4年体育，1年図工）を導入することによって，教科の専門性を高め，より高い質の授業を行うことができ，さらに学級を多くの教諭で把握することにより，見届けや確認がしっかり行うことができた。

- ・算数での発展的学習時や国語での言語事項時に習熟度別学習を取り入れることにより、自分の興味や学力に応じて活動ができ、できる喜びを味わい、意欲が高まることで進んで学習に取り組む姿を多く見られた。
- ・積極的な職員研修の取り組みによって、校内研修での研究授業を全学年で行うことができた。
- ・補充の時間として設定した「学びの時間」によって、基礎学力の反復練習や分からないところの個人指導を行うことができ、学力の定着につながり、通常授業の手助けとなった。
- ・多様な研修を年間通して行うことができた。例えば鹿児島大学附属小学校教諭の出張授業、全音研の講師招聘による音楽実技研修、職員による影絵劇発表、職員のリコーダー合奏や合唱発表の実施。
- ・校内研修で職員の特性を生かした研修ができた。(家庭科：郷土特産物を使った料理，総合：英会話，図画工作：スケッチ大会合評会，社会：校区探検)
- ・校時表の工夫により計算や漢字の系統的なドリル学習が年間を通して実施できるようになった。
- ・拡大授業参観では、地域の方が21名，保護者62名，学校関係者22名の計105名の参加があり，充実した大会を行うことができた。
- ・中学校との連携をとることができた。8月に合同研修会を行い，生徒指導や学力向上について協議することができた。また，6月の拡大授業参観では6年生への英語の授業として中学校教諭2名の協力をえることができた。

2 今後の課題

- ・通知表をはじめ，評価規準の策定にあたり，どのように学力や理解度を評価していくかを研究する必要がある。
- ・家庭との密な連携を図り，家庭学習のあり方を説明し，充実を促していかなければならない。
- ・校内職員だけの研修ではなく，外部との連携を図り，多種多彩の講師招聘を行い，さらなる技術の向上に努める必要がある。
- ・吉田北中学校との連携をさらに進めて，地域全体でのフロンティアスクールとしての役割を深めていく必要がある。
- ・拡大授業参観の毎年開催によって，地域と学校との関わりをしっかりと築き，地域から信頼される学校となっていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- 4月上旬 NRT検査の実施
- 6月上旬 漢字力・計算力テスト(校内実施)
- 7月下旬 学力検査分析の実施
- 2月下旬 CRT検査の実施
- 3月上旬 漢字力・計算力テスト(校内実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・「フロンティアスクール」学習公開として、拡大授業参観を実施

日時：平成15年6月27日（金）

場所：吉田小学校

対象：保護者・地域の方・教育関係者

目的：吉田小学校の授業をより多くの人に見ていただき、授業の質を高め、子どもの学力定着につなげる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

[新規校・継続校]	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
[学校規模]	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
[指導体制]	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
[研究教科]	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
[指導方法の工夫改善に関わる加配の有無]		有	無	